

2013 年 4 月 25 日(木)

ちよだプラットフォームスクウェア 402 会議室

- ◆ 委員長：中澤信夫 副委員長：久保田悟(議長) 金子純代  
事務：熊谷一樹 室橋紅里子 書記：中山遼平
- ◆ 出席者(順不同)：斉藤威 古川龍文 平井淳一 山田寛 畠山知己 浅野英彦
- ◆ 開会 19:05

◆ 2013 年度委員会活動計画

下記の活動計画について審議し、承認されました。

- ① 大学対抗マッチレースの毎年の開催確立に向けた支援活動。
- ② JSAF へ届くキールボート系海外招待レガッタへの出場チーム選考，キールボートナショナルチーム構想の試案策定・試験的な取組み・環境及びネットワークの構築。
- ③ キールボートパーク構想へ向けた環境の開拓・推進・提案活動の実践。
- ④ キールボートワンデザインクラスの活性化に繋がる協力・支援活動。

- ・ 最終的な目標をしぼらないとアプローチが難しいのではないか。例えば，普及(アマチュア)なのか強化(プロ)なのか，ターゲットも学生だけではなく 20 代の社会人がセーリングを続けられる環境作りが必要ではないか。(山田)
- ・ 将来的に国際大会を数多く開催できるようなセーリング環境・文化の構築を目指している。ハーバー施設，セーリングスクールやクリニック等のハード面，国内レースの盛り上がりや海外レース参戦による若手セーラーの経験蓄積等のソフト面を準備している段階。また需要と供給のビジネスサイクルを構築することも重要ではないか。(中澤)
- ・ キールボートパーク構想の実現に向けて，セーラーや事業者等を集めたフォーラムの開催を検討する。(中澤)

◆ キールボート系海外レガッタへの出場チーム選考について

- ・ 現在，ネーションズカップや学生レース，中国で開催されるレガッタなどの案内が来ている。
- ・ レースの広報，募集，選考，派遣，報告までの一貫したシステムを構築することが今後の課題となる。
- ・ マッチレースに関しては JYMA との調整も必要。今後，JYMA 副会長の田代さんに当委員会メンバーとなってもらい，マッチレース関係の調整を担当してもらう。
- ・ 若手セーラーが海外レースに参加しやすい環境を作りたい。代表チームには JSAF として経済的支援を行えないか検討する。(中澤)
- ・ まずはレース情報を JSAF の HP で開示した方がいい。(平井)

- ・ 最初の派遣となるレースは特に、積極的な発信や支援が必要ではないか。(斉藤)
  - ・ 海外レースの出場チームが増えるには、国内レースの盛り上がりも重要ではないか。(山田)
- ◆ 相模湾キールボートシリーズ 2013
- ・ 実行委員会を立ち上げ、当委員会では支援活動を行う予定であるが、各レースの主催者との調整が遅れており、今年は縮小開催あるいは中止を検討中である。(畠山)
  - ・ 昨年参加艇が増えたノルウェーカップは協力的に積極的である。(金子)
  - ・ 主催者同士が意見を出して併催レースを作り上げることにメリットが少ない。やはり主導・調整役が必要。(平井)
  - ・ 今年は来年以降の改善及び再開につながる活動を行う形でもよいのではないか。(浅野)
  - ・ 担当者の負担が大きいののでうまく役割分担する必要がある。(古川)
  - ・ 今後の方針は中澤委員長に一任することを決定。
- ◆ 大学マッチ 2014
- ・ 学連の評議員会で中澤委員長が次回大学マッチの案内を実施した。
  - ・ 学生には概ね好評であったが、学連の公式行事となるのは難しいのではないか。(平井)
  - ・ スケジュールの早期発表が望ましい。外洋学連のレースや卒業式と被らないようスケジュール調整する必要がある。(平井)
  - ・ 一般公募枠(大学混成)やスポンサー募集について今後検討する。
- ◆ ジャパンメルゲスウィークの開催(山田)
- ・ 9月に西宮でMelges20, 24, 32クラスを併催予定。全部で20艇以上は集まる見通しである。
  - ・ 現在、JSAFの公認・支援を受けるためにクラス協会設立を準備中である。
  - ・ 大人が楽しめる、大人のレベルアップのためのワンデザインクラスを目指している。
- ◆ その他報告事項
- ・ ブラインドセーリング世界選手権のお知らせ(5月24日～6月1日、シーボニア)。
  - ・ 当委員会のメンバー登録者は現在21名。石黒建太郎さんが副委員長に就任しました(金子さん、久保田さんも留任)。
  - ・ 委員会資料を登録メンバーには事前に配布する。
- ◆ 閉会 21:00
- ◆ 次回委員会の開催日：未定。決定次第、web公開及びメール配信します。